

江戸幕府老中連署奉書（毛利文庫遠用物近世後期1071（2の1））

人 ②

「普請」で集まる人と物

～寛保の利根川普請と萩藩～（1）

《寛保の関東大水害》

時は寛保2年（1742）。8代将軍徳川吉宗の治世の末期にあたります。この年の8月1日、関東地方では大雨が降り各地で川が氾濫しました。また8日にも大雨に見舞われ、忍（おし、現埼玉県行田市）・川越（現埼玉県川越市）・古河（こが、現茨城県古河市）・関宿（せきやど、現千葉県野田市）などの諸城にも被害が生じる大災害となりました（『徳川実紀』）。

幕府は甚大な被害の発生を受け、10藩（裏面の【表1】と写真参照）に修復工事を命じました。そのひとつが萩藩でした。上の写真はその時の幕命を萩藩に伝えた文書です。ここでは、萩藩が利根川の普請事業を担った際の、人や諸物の「集まる」をキーワードに紹介します。使用する資料は、毛利家文庫42御勤事22「上利根川御普請御手伝一事記録」です。

《「萩藩」現地へ》

この普請を命じられた萩藩主は6代毛利宗広です。拜命時には国元・萩にいました。上の写真にも「参府に及ばず」とあって、江戸にいなかったことがわかります。

萩藩の陣容を見ていきましょう。

総奉行には加判役の毛利筑後（広定、右田毛利家）が据えられ、副奉行は清水長左衛門（元周）が置られました。このほか、用人、本締役、目付などが配されました。主だった者13人に加え、場所見廻奉行、大工頭、医師（外科医、針医を含む）などが加わり、名前が記された人は141人を数えました。加えて、足軽や中間などが615人。両者を合計すると756人となりますが、それ以外にも、例えば惣奉行の毛利筑後に従う人々もいますから、実際にはこれよりも多い人数が従事したことになります。つまり萩藩からは800人



上利根川御普請御手伝一事記録（毛利家文庫42御勤事22）

寛保2年、萩藩が幕命により利根川普請に従事した際の記録。当初は7冊でしたが、現在は16冊に分冊されています。

裏面にもあるように、この普請は岩国の吉川家も行ったことから、それに関する資料も含まれています。

前後の人員を現地に派遣して、この事業を行ったと言えます。

さて10月6日に幕命を受けたものの、萩からも人を派遣しなければなりません。そうした人々の江戸到着を待ちながら、11月29日に普請が開始されました。途中、12月21日から翌寛保3年1月14日までの年末年始の休みを挟み、3月28日、作業は完了しました。

幕府役人による普請現場の検査を受け、4月15日、参府した毛利宗広は江戸城に登城し、將軍から褒賞されています。

関東筋出水付而、御料・私領共川々普請所御手伝、其方江被仰付候間、可被存其趣候、尤此節不及参府候、恐々謹言、

本多中務大輔
十月六日 忠良（花押）
松平伊豆守 信祝（花押）
松平左近将監 乘邑（花押）
松平大膳大夫殿

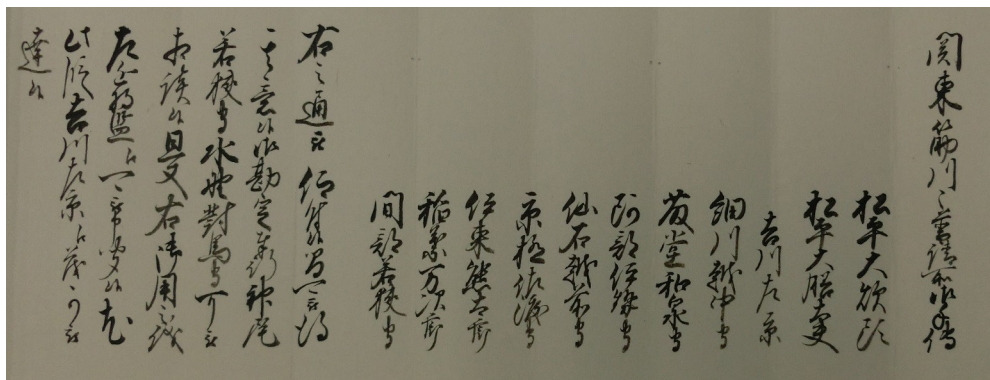
表写真の釈文

【表1】寛保2年利根川普請従事大名

大名	居所	石高
池田継政	備前国岡山	31.5万石
毛利宗広	長門国萩	36.9万石
細川宗孝	肥後国熊本	54.1万石
藤堂高豊	伊勢国津	27.0万石
阿部正福	備後国福山	10.0万石
仙石政辰	但馬国出石	5.8万石
京極高矩	讃岐国丸亀	5.1万石
伊東祐之	日向国飩肥	5.1万石
稲葉泰通	豊後国臼杵	5.0万石
間部詮方	越前国鯖江	5.0万石

【表2】寛保2年利根川普請萩藩主要13名

役名	人名
惣奉行	毛利筑後
副奉行	清水長左衛門
御用人	末国与左衛門
御留守居御普請方兼役	児玉市之助
	井上半兵衛
	小笠原仁左衛門
本ノ役	坂九郎左衛門
	周田孫兵衛
	山縣市郎兵衛
御目付	粟屋五郎兵衛
	南方又八郎
物頭	檜崎弾右衛門
	吉田八右衛門



関東筋川々普請所御手伝

松平大炊頭
松平大膳大夫
吉川左京
細川越中守
藤堂和泉守
阿部伊勢守
仙石越前守
京極佐渡守
伊東熊太郎
稲葉万次郎
間部若狭守

右之通被 仰付候間、可被得其意候、御勘定奉行神尾若狭守・水野对馬守可被相談候、且又右御用之儀左近将監江可被申候、尤此段吉川左京江茂可被達候、

毛利家文庫遠用物近世後期

1071 (191) 45